

創傷ケアセンター

1. スタッフ構成(2026年3月時点)

【創傷ケア委員会】

○中川 浩志(総合診療センター長、創傷ケアセンター長、総合診療部主任部長);創傷ケア委員会委員長

○松立 吉弘(皮膚科主任部長);創傷ケア委員会副委員長

<医局>

○西 建剛、石野 憲太郎、松本 麻由

<看護部>

○濱田 理恵(副看護部長)、松本 和美(看護長)、久保 美千代、和田 理枝

<薬剤部>

○越智 啓介

<リハビリテーション部>

○森川 明、玉井 誠也

<栄養部>

○宮下 真結子

<事務局>

○山口 雅彦、倉田 麻由

2. 認定資格取得(2026年3月時点)

資格名	資格取得者
日本褥瘡学会認定褥瘡医師	中川浩志
日本熱傷学会熱傷専門医	中川浩志、西建剛
日本創傷外科学会専門医	中川浩志
日本看護協会皮膚・排泄ケア認定看護師	久保美千代、和田理枝
日本フットケア・足病医学会認定師	和田理枝

3. 運営方針

当院における創傷(動脈性疾患による創傷、糖尿病性創傷、静脈疾患による創傷、褥瘡、熱傷、凍傷、手術創など)の予防対策と早期治療の達成を図ります。この創傷対策指針に従い、創傷発生予防に対する体制を確立し、多職種協働のもと質の高い医療の提供を目指していきます。

4. 実績

■ 当院の褥瘡・MDRPU データ

	2020	2022	2023	2024	2025	参考 [※]
褥瘡推定発生率	0.30%	0.30%	0.71%	0.81%	0.98%	1.15%
褥瘡有病率	1.40%	1.40%	1.68%	2.36%	2.98%	2.37%
MDRPU 推定発生率	0.40%	0.50%	0.57%	0.62%	0.74%	0.30%

※日本褥瘡学会算出:一般病院(2021年)

2025年1月～12月の褥瘡リスク患者数は52,513名、そのうち褥瘡を保有していたのは437名(775件)、医療関連機器褥瘡(MDRPU)は177名(223件)でした。褥瘡発生患者は178名(247件)、MDRPU発生は162名(223件)でした。

■ 褥瘡発生場所・発生部位

	2023		2024		2025	
褥瘡発生場所						
当院発生件数	162	32%	237	38%	247	33%
持ち込み件数	348	68%	387	62%	508	67%
褥瘡発生部位						
仙骨部	29	18%	31	13%	53	21%
尾骨部	54	33%	103	43%	78	32%
踵部	10	6%	25	11%	21	9%
その他	69	43%	78	33%	95	38%

当院の自重による褥瘡発生部位は、尾骨部78件、仙骨部53件、踵21件でした。

2025年度の取り組みは、尾骨の褥瘡を減少させるために、周術期にターゲットを絞りました。発生要因を分析し、要因に応じた教育を行った結果、尾骨部の褥瘡発生は78件に減少しました。尾骨部発生には周術期にターゲットをおくことが明らかとなりましたので、2026年度も教育を継続し、発生率の低下に繋がります。

2025年に続き褥瘡対策診療計画書の正確な入力ができるようRPAを活用した取り組みを継続しました。その結果、褥瘡対策診療計画書の入力不備は減少しました。

■ MDRPU(医療関連機器褥瘡)

	2023		2024		2025	
MDRPU 発生場所						
当院発生件数	193	95%	241	95%	207	93%
持ち込み件数	11	5%	12	5%	16	7%
医療関連機器褥瘡種類						
尿道留置カテーテル	26	13%	15	6%	15	6%
経皮酸素分圧モニター	9	5%	16	7%	16	7%
血管留置カテーテル	15	8%	11	5%	11	5%
気管内チューブ	19	10%	13	5%	13	5%
非侵襲的陽圧換気療法	26	13%	31	13%	31	13%
その他	98	51%	155	64%	155	64%
MDRPU 推定発生率	0.57%		0.62%		0.74%	

■ 褥瘡のハイリスク

	2023		2024		2025	
アセスメント数	1,000		1,311		2,600	
ハイリスク患者特定数	685		726		1,739	
項目別件数						
麻薬などの鎮痛剤	416	35%	525	38%	1,409	44%
医療関連機器の長期かつ持続的な使用	207	17%	158	11%	242	8%
6時間以上の全身麻酔	271	22%	283	21%	374	12%
極度の皮膚の脆弱	131	11%	146	11%	141	4%
手術中の特殊体位	49	4%	138	10%	776	24%
ショック状態	44	4%	47	3%	66	2%
褥瘡に関する危険因子	72	6%	63	5%	146	5%
重度の末梢循環不全	12	1%	13	1%	21	1%
強度の下痢	2	0%	1	0%	7	0%

■ 創傷対策チームによる褥瘡・ハイリスク回診実施数

	2021	2022	2023	2024	2025
実施数	193	216	124	124	140

■ 創傷発生時のカンファレンス実施率

	2021	2022	2023	2024	2025
実施率	81%	80%	83%	84%	93%

創傷発生時のカンファレンス実施率 93%と上昇しました。このことは、創傷予防の意識の高まりだと思います。今後も、カンファレンス内容を記録に残し早期治癒と予防ケアに繋げることができるように指導していきます。

5. 2026 年度目標

- (1) 褥瘡推定発生率 0.9%以下と医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)推定発生率 0.6%以下を維持します。
- (2) 自部署で中核となるリンクスタッフと褥瘡専任看護師の育成を強化します。
- (3) RPA を用いた褥瘡対策診療計画書入力不備通知の自動化を図ります:専任看護師対象

6. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. 和田理枝. ストーマ粘膜皮膚離開に対し多職種の連携によるアプローチが有効であった 1 症例. 第 38 回中国・四国ストーマリハビリテーション研究会. 高松 (2025.6.7)